

「令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大に係る実態調査」訪問看護ステーション調査結果(抜粋)

(山形県看護協会調査)

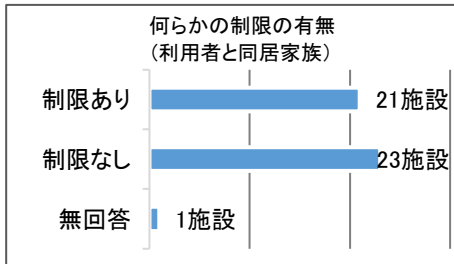
調査実施期間: 令和3年7月16日～7月31日

調査施設数 76 施設 回収数 45 施設 回収率 59%

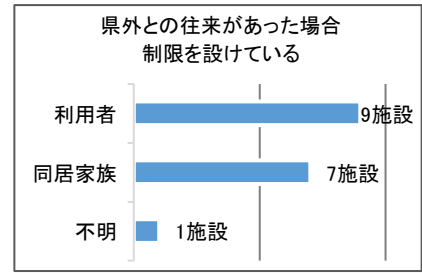
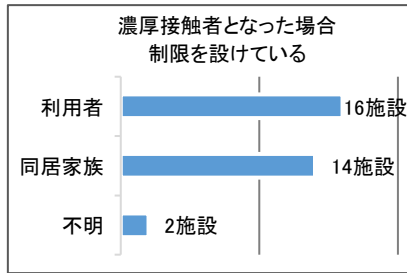
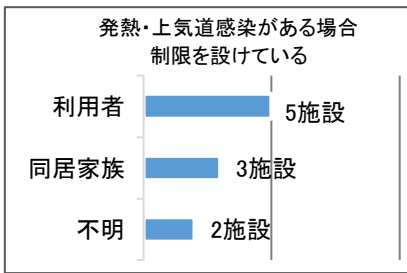
※山形県内76訪問看護ステーションの令和2年7月以降の状況について

○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年6月時点での訪問看護の制限を設けていたか。

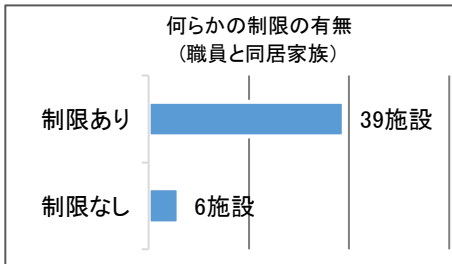
1) 利用者とその同居家族について



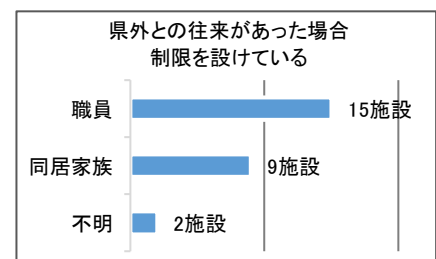
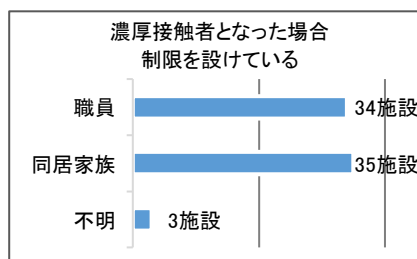
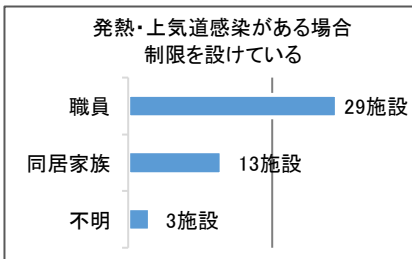
・「制限あり」の場合、利用者とその同居家族に各項目の制限を設けているか。



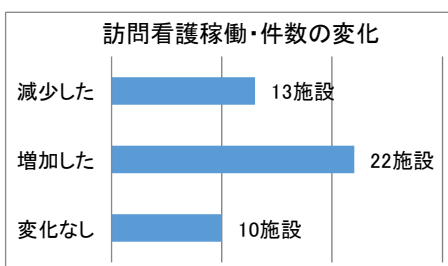
2) 職員とその同居家族について



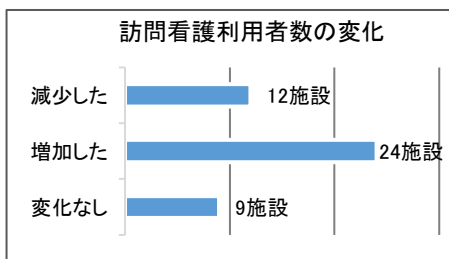
・「制限あり」の場合、職員とその同居家族に各項目の制限を設けているか。



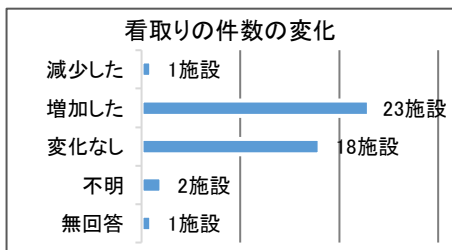
○令和3年6月の訪問看護稼働・件数について、令和2年6月と比較して変化したか。



○令和3年6月の訪問看護の利用者数について、令和2年6月と比較して変化したか。



○令和2年7月～令和3年6月の期間の看取りの件数について変化したか。



【看取りの件数が、減少また増加したと思われる理由】

- ・病院での面会が制限され、自宅での療養や看取りを希望される方が増えたと思われる(19)

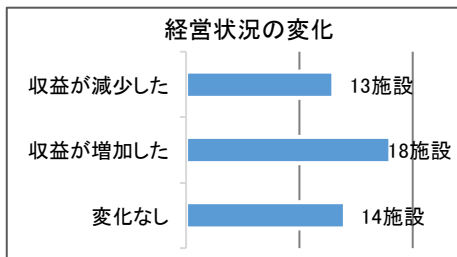
面会制限があるため、在宅介護の途中で病院へ戻ることを選択する方も減っている

当ステーションのデータから、利用者数の増加はそれほどでもないが、稼働率が150%になっており、医療依存度の高い利用者の利用が多い傾向がある

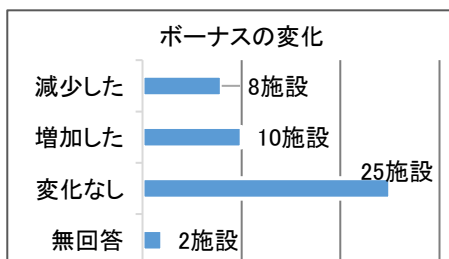
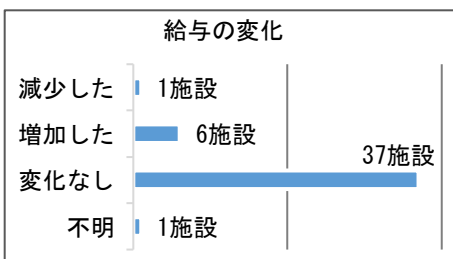
- ・病院でACPIに力を入れており、本人の意思決定支援が進んできており、病院での看取りが減少している。癌の告知を受け、どうせ治らないなら、家で過ごしたいと自分や家族の希望で在宅を選択した方も増えた

- ・訪問診療専門クリニックが開院したことや家族、親類、友人等に気軽に会いたい為、自宅看取りの希望をされる方が増えている

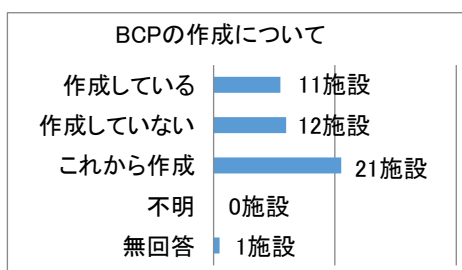
○令和3年6月時点の経営状況について、令和2年6月と比較して変化はあるか。



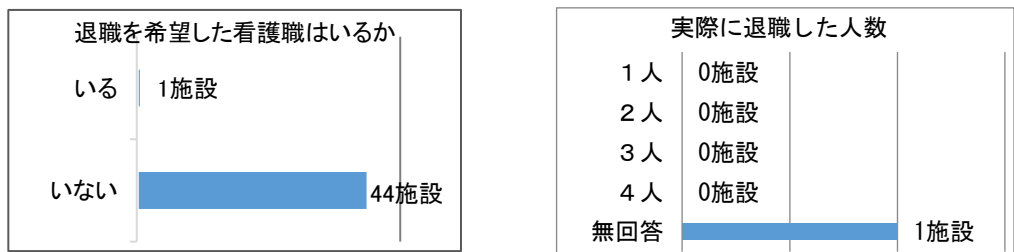
○令和2年7月～令和3年6月の給与等の支払いについて、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して変化はあったか。



○BCP(事業継続計画)は作成しているか



○新型コロナウイルス感染症を理由に退職を希望した看護職はいるか。実際に退職した看護職の人数。



○経営状況とそれによる看護職の現状についての意見

・経営状況としては、利用者の増減には純粋なコロナによる影響は出ていない。むしろ、従業員も昨年と比べて増え、営業成果もあり、昨年の倍近くには増加した。ただ、毎日の訪問に備品代がかかっていることと、それによる可燃ごみの増加で雑費も増えている

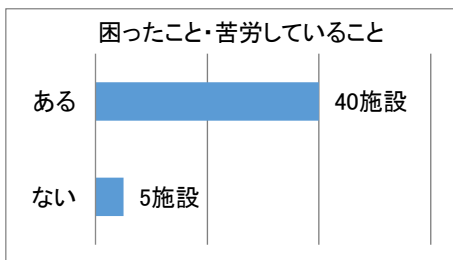
・業務量や負担が増加している

もともとが慢性的な看護師不足の中、外部機関への連携や協力等、スタッフ一人ひとりの負担が増えている
 在宅療養や頻回な訪問が必要なケース、看取りを希望される方が増え、看護師の業務量は増えている

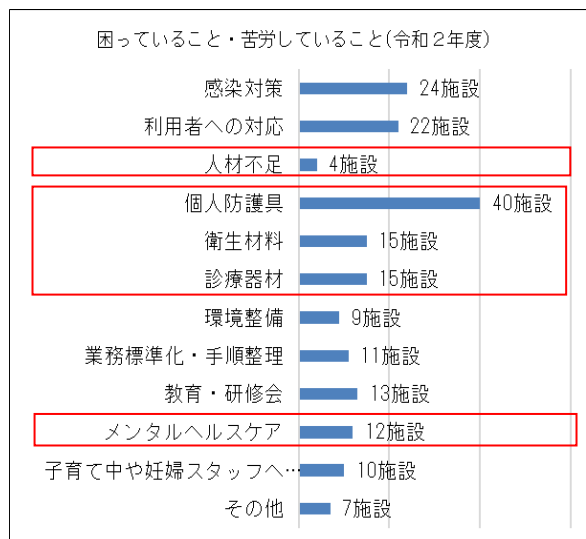
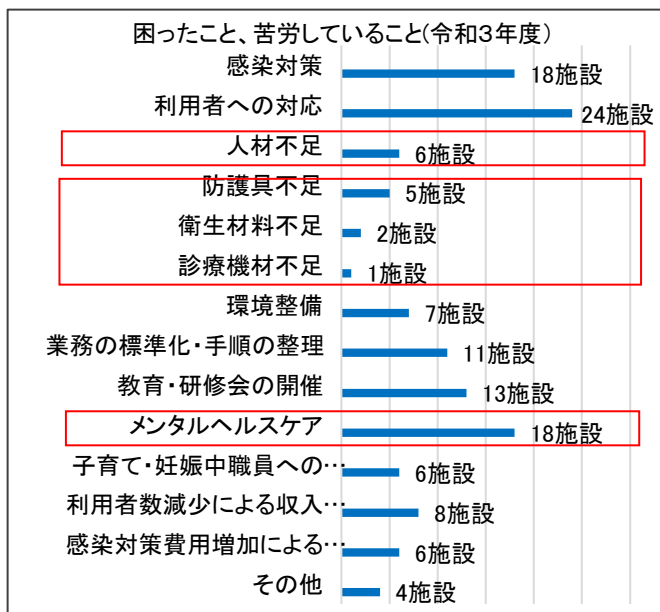
・人員が不足している

在宅を希望されるケースが増え、相談も増えていますが、人材不足により受け入れができない状況である
 全体的に看護師が不足し、退職者がいても看護師の補充がない

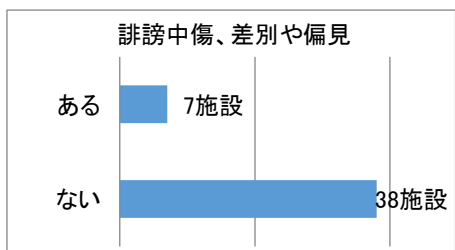
○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困っていること、苦労していることはあるか。



○困っていること・苦労しているの内容



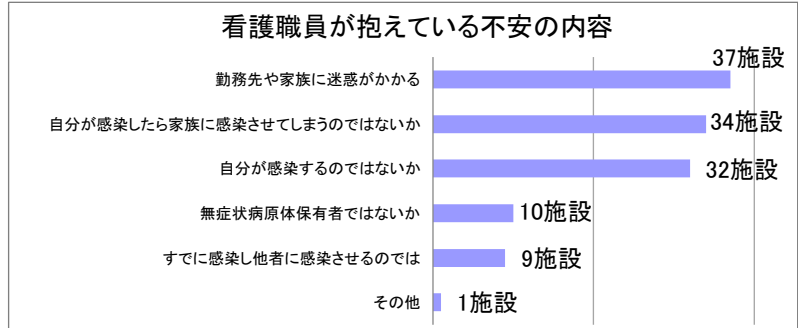
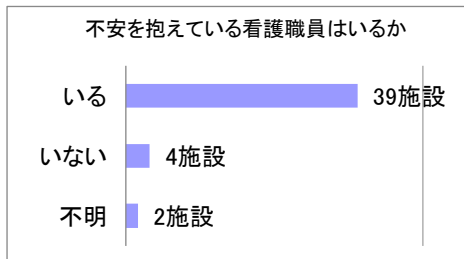
○誹謗中傷や差別・偏見などの実態などはあるか。



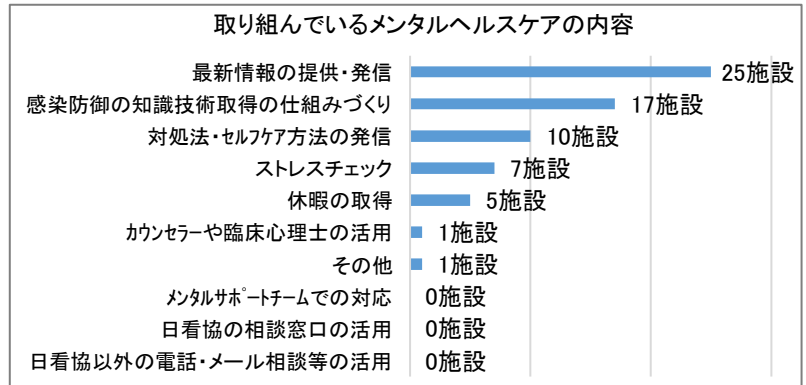
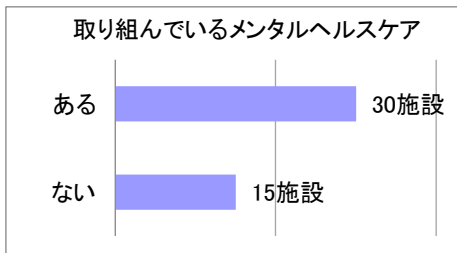
【誹謗中傷や差別・偏見の内容】

- ・スタッフの居住地に感染者がいた場合、大丈夫かと尋ねられた
- ・防護服を使用する旨を伝えると訪問をキャンセルされたり、「そんなもの着てくるな」と言われたりした
- ・「コロナ病棟で対応している看護師は大変な思いをしているのに、訪問看護は楽な仕事をしている」と利用者と言われた
- ・親が医療関係者だから、近づかないで、と子どもが友人から言われた
- ・以前はあったが今はなくなった

○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、不安を抱えているスタッフはいるか。抱えている不安の内容(複数回答)



○メンタルヘルスケアとして取り組んでいることはあるか。ある場合はその内容(複数回答)。



○今後の課題について

- ・新型コロナウイルス感染症の自宅療養者等への対応についての不安
 - 対応への不安
 - 人員不足のために対応できるか
 - 今の訪問看護の体制の継続が難しくなる など
- ・職員や利用者が感染した場合の対応や、職員の家族の職場や学校で陽性者が出てPCR検査を受けた場合の職員の対応をどうするか
- ・業務継続計画(BCP)の策定、見直し
- ・利用者の県外の帰省が増えている中で、職員と利用者家族の危機意識にずれがあるように感じ、危機意識の共有を図っていきたい
- ・現在、入院中の面会が制限されている状況で、家族が実際の病状やADLをよく理解できないまま退院されるケースもあり、在宅に戻ってからその部分をフォローすることもあり、退院前に状況共有を密にし、必要時は問題提起する必要もある
- ・今後も全国的に感染の収束は見えない中での業務継続となる。今後の事業所内の感染対策の取り決めも状況に合わせて変更していく必要がある
- ・今年は国からの支援事業(助成金)が出ていないが、備品費や雑費が引き続きかかることから、そこを売り上げだけで補うのは厳しい面もある